

長崎高教組

# 定通部だより

2014年1月28日

第6号

発行責任者 今泉 宏



武雄市図書館

ホームページ <http://nagasaki-kokyoso.org>  
メールアドレス [info@nagasaki-kokyoso.org](mailto:info@nagasaki-kokyoso.org)

参加者 7名

濱本 功二 (大村定)

立川 浩 (大村定)

古川 博之 (大村定)

田口紀美子 (大村定)

烏山 隆弘 (鳴滝夜)

馬場 敦子 (諫早定)

前田 祥紀 (五島定)

## 2013 日高教定通部

### 中国・四国・九州ブロック学習交流集会

2013年11月2日(土)～3日(日)佐賀県武雄市

11月2日(土)

基調報告「生徒会活動について」 佐賀北高校通信制 新原和俊さん

毎日登校してくる全日制や定時制と学習形態が大きく違う通信制高校は、社会的認知度がきわめて低い。必ずしも第一志望で入学したのではない一人一人の生徒に「この学校に来てよかった」と胸を張って卒業して欲しいという教職員の共通した願いの実現を目指した生徒指導部と生徒会活動の取り組み。紙面の都合で、特徴あるとりくみのみをまとめました。

#### 「全日制との交流」

07年全国大会で優勝した全日制野球部との交流会を実施した。野球部に通信制生徒会が作成した「寄せ書きメッセージボード」を贈ろうという声が生徒会役員を中心として持ち上がり、スクーリングで登校した生徒に寄せ書きを書いてもらい、野球部に贈呈した。生徒会役員と野球部との座談会も実施。卒業祝賀会「弥生祭」を全日制放送部に撮影してもらった。全日制の生徒に「通信制とはどんなところか？」を実感してもらうことが主目的だった。

#### 「託児室の取り組み」

生徒が低年齢化してきた近年においても、女子生徒の中には、育児、家事、仕事をこなしながら登校している生徒も少なくない。そのような生徒はかなりの確率で母子家庭であり、年に1回だが、7月の集中スクーリング(文化祭)時に「託児室」の試みをこの3年間続けている。スタッフは佐賀市内で活動している子育て支援グループ「お助けママ」からメンバーを派遣してもらっている。「子育ては社会全体で」ということで、すべてのスクーリングで託児室の開設を目指して卒業生や保護者の支援、行政のバックアップを得て運動の輪を広げていきたい。

#### 「バールンボランティア」

校内での生徒会活動やマナーアップの運動に一定の成果が見られるようになった07年、佐賀を代表するイベント「佐賀インターナショナルバールンフェスタ」へのボランティアに参加を始めた。4年間続けていて、昨年度は5日間の大会期間中、延べ60名を超す生徒がボランティアに汗を流した。



基調報告



本県の参加者

11月3日（日）

### 講演学習1「若者のサポート活動に学ぶ」

たけお若者サポートステーションからの報告 講師：里村勇士さん

### 講演学習2「武雄市図書館の現状と課題について」

井上一夫さん（武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会 代表世話人）

中尾雅之夫さん（武雄市役所職員）

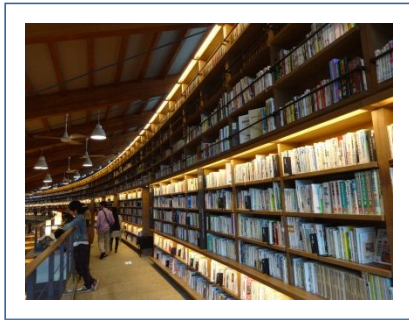
「市民の会からの公開質問状の概要」

- 災害時の避難誘導や新しい図書館の構造上において問題がある。
- 全体で4か所あったトイレが1か所に集約された。歴史資料館としての機能がなくなった。
- 歴史的な価値が高い「武雄蘭学館」を蔦屋書店のDVD・CDコーナーに改修したのはなぜか。
- （図書館の改修工事期間に）建築基準法確認済（証）が現場に掲示されていなかった。蔦屋書店のテナント料が、市教委積算の賃借料1200万円が半額の600万円に減免されたと聞いた。
- 武雄市におけるICT（情報通信技術）教育の全体像が見えない。この政策の哲学はどこに、計画は立てられているのか、行程表は出来ているのか、その全体像を市民に示して欲しい。

定通だよりで紹介できなかった内容については、高教組HPに掲載しますので、興味のある方はご覧ください。



講演学習1



これで良いのか  
武雄市図書館

## 参加者の感想

### 【濱本功二（定通部部长・大村定）】

佐賀北高校通信制の新原和俊先生のお話にはたいへん感銘を受けました。通信制という限られた時間でしか学校に出て来られない生徒達が、生徒会の活動を通して周りとの関係を気づき北高通信制に入学してよかったと実感して卒業していく素晴らしい実践報告でした。あまりにもすばらしくて、同じような実践をすることは到底できませんが、参考になることも多くありました。

「NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス(S.S.F.)」の里村勇士さんの報告は、分かりやすく、今後相談したい事例が出てきたときは相談したいと思いました。

武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会」代表世話人の井上一夫さんのお話では、マスコミにも大きく取り上げられている武雄市図書館ができるまでの問題点や課題が理解できました。

今回の学習会は、長崎県から7名の参加でした。来年は山口県で開催される予定です。来年も多くの人に参加して、他県の教職員や他分野の人との交流を深めていければと思っています。

### 【烏山隆弘（鳴滝夜）】

#### 基調報告「生徒会活動について」

生徒会新聞や通信を活用し、生徒の活躍や生き生きとした表情を発信する取り組みが報告されました。生徒たちの自尊感情を高めるツールとして機能し続ける生徒会新聞は、国語科かつ写真部顧問の新原先生が、記事やレイアウトから色使い等まで編集を担当。その驚愕のクオリティーは、長崎市広報誌レベルでした。

### 講演学習1「若者のサポート活動に学ぶ」

急激な社会変化の中、若者が抱える問題が複雑化・深刻化している。社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立に向けてアウトリーチ（訪問支援）の必要性を訴えられました。高校とサポステ等相談機関との連携を促進し、現在、佐賀県内43校と協働事業を展開。講演の中で「足りないもの、必要なものは協働で創り出す」という言葉に情熱を感じました。

### 講演学習2「武雄市図書館の現状と課題について」

地域の文化に根ざした図書館・歴史資料館が、市長の独断で商業施設に貸し出された経緯・現状を説明し、問題点を指摘。安全な公共文化施設が、経済の論理に飲み込まれ、構造上・防災上も危険建造物に改築され、利用者へのサービスも大幅に質が低下している。閉会后、希望者で「図書館」を見学し、危険性や不便さについて確認しました。

### 【田口紀美子（大村定）】

佐賀県武雄市の学習交流会はすべて佐賀北高校通信制の新原和俊先生の通信でのキャリアと人脈つながりで成り立った発表でした。通信制ならではの活動に知恵をしぼり出し、行事参加をうながした内容でした。生徒は生き生きとし、卒業後もボランティアへの連絡があるとのことでした。残り2つの発表は、日ごろ気をつけていても見過ごしやすい視点、観点があり、今後の活動や支援の動きは、目が離せないと思いました。今回お世話になった佐賀県の先生方のおもてなしに感謝しています。